

【(9) 机間指導】

①「ノートやワークシート等を確認して理解度を把握している」

《つまづきの背景》

B 言語理解の困難さ、F 視覚認知の困難さ、I 目と手の協応動作の困難さ、J 言語表現の困難さ

《解説》

机間指導によって、一人一人の子どもや小グループでの学習状況を把握し、必要に応じて適切な個別支援を行うことができます。

学級の中には、語句や文章の意味が十分に理解できていなかったり、話の流れをつかむことができにくかったりする子どもがいます。ノートやワークシート等を確認することで、子どもが学習内容をどの程度理解しているかということや、課題についてどのような考え方をしているかということがつかめます。また、漢字などの文字が不正確であったり、定規で線をうまく引けなかったりする子どもがいます。ノートやワークシート等の確認が大事になります。子どもの学習状況を把握することにより、教師は授業展開や指導方法等について自己評価し、不十分な点を修正していくことができます。

座席の配置を工夫して、個別支援が必要な子どもの所へすぐに行けるようにしたり、机間指導のコースを決めておいたりすることで、限られた時間を有効に使うことができます。

【工夫点】

- ・ノートやワークシートに朱書きをする。(小 工夫例 63)
- ・名簿を活用して理解度をチェックする。(小 工夫例 64)
- ・よい考え方をしている子どもがいればその場でノートに丸を付ける。(中)
- ・机間指導のコースが偏らないようにする。(高)

◆工夫例 63 「ノートやワークシートに朱書きをする」



《小学校》

ワークシートにあらかじめ自分の考えを記入してから発表するようにしておくと、子どもが発言しやすくなります。発言できにくい子どもがいます場合は、ワークシートに書いている際にチェックしておくと、「こんなよいことを書いているよ」と全体に紹介することもできます。ワークシートに書くことで、発言できなかった子どもがいても、その子がどのようなことを考えたのかを教師が把握することができます。

◆工夫例 64 「名簿を活用して理解度をチェックする」

		2/19	2/20	2/21
	児童氏名	見取り図 直方体の	展開図 直方体の	展開図 立方体の
1		△	○	○
2		◎	◎	◎
3		△	△	△
4		○	◎	○
5		○	○	△
6		△	△	△
7		◎	◎	◎
8		◎	◎	◎
9		○	◎	○

《小学校》

児童名簿に日付とチェック内容、学習状況(十分理解している◎、あと一歩○、不十分△)を記入して、理解度の把握に生かすことができます。△のついた児童には、個別に関わるようにします。